

## ✿ 中央アジアの人々と遺跡を探る

カザフスタンはロシアの南、東は中国に接し、西はカスピ海に至る非常に大きな国です。シルクロードといえば、砂漠や荒野が続いているイメージですが、アルマティ空港に降り立つと、車や人の多さ、物資の豊富さは日本とあまり変わりがなく、その発展ぶりには目を見張ります。

9月18日から26日まで、東京文化財研究所に協力する形でユネスコ日本信託基金シルクロード支援事業による国際ワークショップに参加しました。奈良文化財研究所からは森本晋国際遺跡研究室長と私が参加し、中央アジア各国の研究者に遺跡探査の方法についての紹介と利用方法についての解説をおこないました。

今年はワークショップの2年目にあたり、カザフスタンでは機材を購入し、基本的な計測方法や解析の理解は充分でした。このため、初年度とは異なり、より実践的な内容を中心に、講義と遺跡での実際の計測を実施し、ソフトウェアによる解析や、成果についての討論をおこないました。地中レーダーは道路下の配管の確認から資源探査まで多くの分野で利用が進む技術ですが、遺跡の情報を得るためには、それにあった方法を確立する必要があります。ともに試しながら日本での経験を伝えることで、土地や対象に応じた方法を試行錯誤することの大切さを感じてもらいました。

参加者の多くは20~30代の若者達で、時間を超過しても質問攻めにあったのは昨年と同じでした。数年後、どこかで彼らの成果を拝見することを楽しみにしながら、彼らに笑われないように研究しないと、と気を引き締めて日本へ戻ってきました。

(埋蔵文化財センター 金田 明大)



カザフスタンにおける探査風景